

この世界にはエドがない。

坂井実

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

俺はある夢を見る。それはエドワード・エルリックに会う夢だった。

# 目次

この世界にはエドがない。

1

この世界にはエドがない。

俺は夜、寝る事にした。

そこに鋼の錬金術師の漫画を置いて。

「おい、起きろー!」

と揺られて目を開けると…そこには金髪のみつ編み、鋼の腕に脚、おまけに銀時計があった。

「此処は…?」

と問う。すると…

「何、寝ぼけた事言ってた。…此処はリゼンブルだぜ!」

と答えられ…

「う、うわああ!!」

と言って目を覚ますと、そこはいつもの寝室、何事もなかったかの様に、日常が始まる。

だが、ある事に気付く。

これは当然の事なのだが…

《この現実世界にはエドワード・エルリックはいない!》

…

…

…

それからあっさりと時が流れた。

かつて小さな僕も成長し、今となっては、仕事を任せられる様になった。

もうすっかりあの日の事は忘れている。

「おい、そこのお前。」

…あれ?あの人は?

「人をジロジロ見るなよ。…ところでニホンは何処だ?」

と聞く金髪のその人は、年老いてはいるが、エドワード・エルリックさんだ!

「ええと、此処がニホンですよ。」

と丁寧話す

「…ありがとな。」

と言って去っていった。

今、世界の何処かでエドワード・エルリックさんがいる。

それは本人ではないかもしれないし、表面上の物だ…と言ってしま  
う人もいるかもしれない。何もかもが真実であるとは述べる事は出  
来ないのだ。

だが、全てを否定するのはあまりにも一方的じゃないか！

けど、信じるには少し足りないのかも。

んでその後、エドワード・エルリックさんに質問してみた。

「貴方はこれからどうするんですか？」と。

彼はケーキにフォークを入れようとしたが、イチゴが上手く挟まら  
ず…不意に

「家族とのんびり暮らす。色々と気掛かりな事もあるけどな。」

と…

家族の事を考え、次に起こるものに備え、どんな状況に置かれたと  
しても、自分の力で乗り越える。

まさに理想的な人じゃないか。

「この世界で戦いが起きた時は？」

思わず聞いてしまった。

ガタツ！

と音を立てたかと思うと…

「それでも俺は逃げねえ、必ず戦いを止めてみせる！」

と、まさに理想的な回答をした。

「それでこそだ。やっぱり僕は貴方の考えに賛同したい。」

と思わず口にしてしまった。

「…へへッ」

と笑った。

「…さてと、そろそろ行こうか。」

と言って僕らは、ニホンへ向かった。

そして二人は、また新しい時間を歩み出した。  
いつかきつと、この世界の平和を取り戻す。

その為には、まず話し合いの椅子につかねばならなかった。

どれだけ長い月日かけたとしても

必ず成し遂げなければならぬ事があるからだ